

開催挨拶

鈴木 和夫（独立行政法人森林総合研究所¹ 理事長）

昨年、日本では気候変動の影響と思われる記録破りの豪雨や豪雪が続き、気候変動の影響についてあらためて思いを巡らす1年となった。このような中、6年間の作業を経て刊行された「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）²第5次評価報告書³」は、大気中の温室効果ガスの継続的な上昇に激しく警鐘を鳴らすとともに、世界の気温上昇を2℃以下に抑えるためには、森林減少・劣化からの排出の削減はもとより、新規植林やバイオマス発電と、二酸化炭素の地下貯留との組み合わせなど、森林分野が多大な役割を果たす必要があることを強調した。

7年前の2007年のIPCC第4次報告書⁴では、気候変動の緩和策として、森林からの排出削減が重要であることが示され、世界の注目を集めるきっかけとなったが、当時はポテンシャルに対する期待だけが先行し、それを裏付ける技術も政策も信頼に足るものはなかった。そのような中、2010年に発足した森林総合研究所REDD研究開発センター⁵は、精度、透明性、コストのバランスが取れたモニタリング技術の開発に努めるとともに、ドライバーの分析やセーフガード対応に取り組んできた。

発足当初を振り返ると、途上国における森林炭素のモニタリングにおいて、一定の精度を求めることは非現実的と言われたこと、ドライバーやセーフガードは議論すること自体がタブー視されていたことなどが思い出される。しかし、思えばこの5年間、われわれは先進国も途上国も一つとなって、そうした課題を一つ一つ乗り越え、一昨年末のCOP19⁶ワルシャワ会合⁷では、REDDプラスの基本的な枠組みに合意するとともに、それに呼応して昨年はブラジルを筆頭にREDDプラスの実施国が自国の参照レベルについて科学的な根拠を持ってデータを提出し、技術的なアセスメントを受けるまでに至った。このことは、この5年間に途上国におけるREDDプラスの体制整備が目覚ましい発展を遂げたことを示し、私どもはその技術的進歩の一端を担ったものと自負している。

昨年末のCOP20⁸では、ワルシャワ枠組み合意について、REDDプラスの資金や支援の調整に関する議論や意見交換が開始された。これを受けて、今年度の公開セミナーでは、森林総合研究所REDD研究開発センターが、これまで取り組んできた技術から一步踏み出して、資金と政策をテーマとして掲げた。今年末に予定されている2020年以降の枠組みの中で、REDDプラスの骨組みをしっかりと位置付けるためには、今年度の議論が山場となる。森林総合研究所REDD研究開発センターは発足から5年が経過し、一つの節目を迎えようとしている。これまでは科学に軸足を

¹ <http://www.ffpri.affrc.go.jp/>

² <http://www.ipcc.ch/>

³ <http://www.ipcc.ch/report/ar5/>

⁴

http://www.ipcc.ch/publications_and_data/publications_ipcc_fourth_assessment_report_synthesis_report.htm

⁵ <http://www.ffpri.affrc.go.jp/redd-rdc/ja/>

⁶ 第19回気候変動枠組条約締約国会議：<https://www.cbd.int/cop/>

⁷ <http://www.cop19.gov.pl/>

⁸ 第20回気候変動枠組条約締約国会議：<http://www.cop20lima.org/>

置き、REDDプラスに関わる多くの日本の機関や技術者をつなぐ、技術ハブとして力を尽くしてきました。今後は、現場での取り組みを実現させていくために、産業界や消費者を含む多くの方々の実質的な協力が必要となってくる。

このような中、わが国では昨年11月に「森から世界を変えるREDD+プラットフォーム」が発足し、オールジャパンでのREDDプラスの推進に大きく一歩を踏み出した。今回のセミナーをきっかけに資金や制度についての理解が深まるとともに、世界の森林保全と気候変動対策の推進につながることを願ってやまない。本セミナーの開催に当たっては、国際協力機構（JICA）⁹、国際熱帯木材機関（ITTO）¹⁰、国際林業研究センター（CIFOR）¹¹、地球環境戦略研究機関（IGES）¹²、総合地球環境学研究所¹³に多大なご協力を頂いた。また、林野庁¹⁴、外務省¹⁵、経済産業省¹⁶、環境省¹⁷、そして日本森林学会¹⁸などからご後援を頂いた。関係機関の皆さまにお礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご協力をお願い申し上げ、ご挨拶とする。

⁹ <http://www.jica.go.jp/>

¹⁰ <http://www.itto.int/ja/>

¹¹ <http://www.cifor.org/>

¹² <http://www.iges.or.jp/jp/>

¹³ <http://www.chikyu.ac.jp/>

¹⁴ <http://www.rinya.maff.go.jp/>

¹⁵ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/>

¹⁶ <http://www.meti.go.jp/>

¹⁷ <http://www.env.go.jp/>

¹⁸ <http://www.forestry.jp/>